

平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 数学(数学) (1/2枚目)

調査の観点	発行者名	東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	啓林館	数研出版	日本文教出版
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも多少配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の習得のため、複雑な数値を避けたり、操作的活動を取り入れている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも配慮されている。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも多少の配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。	基礎基本の知識や技能が確実に身につくよう、配慮がなされている。 技能面を伸ばす内容だけでなく、生徒が自ら考える内容にも多少の配慮あり。 生徒の学びを補助するポイントが様々用意されている。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の指導時間を十分取っている。正負の数26h 文字式21h 比例反比例18h 1年 章末問題2ページ 補充10ページ 小学校の復習11ページ 配当時数 1年 124h(140h) 2年 92h(105h) 3年 114h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の定着のための時間を用意。正負の数23h 文字式16h 比例反比例17h 1年章末問題 3ページ、補充7ページ 配当時数 1年112h(140h) 2年 89h(105h) 3年 100h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の理解に必要な指導時間を取っている。正負の数26h 文字式16h 比例反比例18h 1年章の問題2ページ 補充7ページ 小学校計算1ページ 配当時数 1年 123h(140h) 2年 92h(105h) 3年 113h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の定着のための時間を用意。正負の数24h 文字式18h 比例反比例20h 1年章の問題2ページ 補充14ページ 小学校計算巻頭 1ページ 配当時数 1年 122h(140h) 2年 93h(105h) 3年 115h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の定着のための時間を用意。正負の数24h 文字式17h 比例反比例17h 1年章の問題3ページ 補充7ページ 小学校 10ページ 配当時数 1年 119h(140h) 2年 89h(105h) 3年 114h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の定着のための時間を用意。正負の数24h 文字式18h 比例反比例16h 1年章の問題4ページ 補充21ページ 小学校 6ページ 配当時数 1年 120h(140h) 2年 90h(105h) 3年 117h(140h)	小・中・高の内容の系統性を考慮し、領域ごとに系統的、発展的に構成。 基礎的基本的な内容の定着のための時間を用意。正負の数24h 文字式18h 比例反比例19h 1年章の問題5ページ 補充7ページ 小学校 3ページ 配当時数 1年 115h(140h) 2年 88h(105h) 3年 102h(140h)
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		数学的な正確さを保ちながら、分かりやすい表記を心がけている。 ゆとりのある1ページ 目に優しい色彩。写真は鮮明。	数学的な正確さを保ちながら、分かりやすい表記を心がけている。字の大きさにも配慮。 見開き1ページで内容をとらえやすいように工夫。 印刷が鮮明すぎる。	数学的な正確さを保ちながら、分かりやすい表記を心がけている。 シンプルな1ページ 目に比較的優しい色彩。写真は鮮明。	数学的な正確さを保ちながら、分かりやすい表記を心がけている。 色づかいのバランスに欠ける。 印刷は鮮明。	用語や記号の使い方は簡潔、明瞭に表せるよう配慮している。 強調する内容への色づかいに工夫。 印刷は鮮明。	文字は大きめ。用語や記号の使い方は、大切な個所を強調する工夫あり。 シンプルな1ページ。 目に優しい色彩。写真は鮮明。	大切な文章を強調している。また、例と問の色分けがなされている。 ページの色合いがバランスを欠いている。 写真は鮮明。
4 使用上の便宜 (1)全体が構成見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		全体が見わたせ、学習の進め方・教科書の使い方・ノートのまとめ方が巻頭に4ページ分ある。 ヒントを吹出して示し、さらに「まじがい例」を効果的に示している。	全体が見わたせ、教科書の使い方が巻頭に3ページ分ある。1時間の学習内容が見開き2ページでまとめられていて、教科書が厚い。 ヒントを側注で示している。	全体が見わたせ、教科書の使い方が巻頭に2ページ分ある。 ヒントを吹出して示している。	全体が見わたせ、教科書の使い方が巻頭に3ページ分ある。 ヒントを吹出して示している。	全体が見わたせ、学習の進め方・教科書の使い方・ノートのまとめ方が巻頭に7ページ分ある。 ヒントを吹出して示し、「ふりかえり」を効果的に配置している。	全体が見わたせ、教科書の使い方が巻頭に3ページ分ある。教科書が薄めである。 ヒントを吹出して示している。	全体が見わたせ、学習の進め方・教科書の使い方が巻頭に3ページ分ある。教科書が薄めである。 ヒントを吹出して示している。

平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 数学(数学) (2/2枚目)

調査の観点	発行者名	東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	啓林館	数研出版	日本文教出版
5 総合所見(重点調査項目) (1)数学的活動の取扱い	<b>見いだす活動 利用する活動 説明し伝え合う活動</b>	各章のとびらに見いだす活動が実生活に合った課題で取り上げられている。「やってみよう」を中心に が豊富に取り上げられている。生徒キャラクターを示して、を取り上げている。	数学的活動にマーク(どの活動かも示してある)がついており、生徒自身が自主的に取り組みやすい。～の活動が各章にバランスよく設定されている。	数学的活動について、重点をおいで学習できるページが各章に2ページあり、ページの外側にクリーム色の帯で明示しており、分かりやすくなっている。	数学的活動の場面では、マークと、ページ外側に2色の帯で明示してある。各学年3～6ヶ所に、2ページ前後まとめて取り上げている。どの活動に当たるのかははっきりしていない。	「ひろげよう」で を、「身のまわりへの利用」で を、「伝えよう、話しあってみよう、まとめてみよう」で を明示してある。 が多く、内容的にやや高度である。	数学的活動は各章に散見されるが、どの活動に当たるのかははっきりしていない。 を主に「Q」で示しているが、あえて数学的活動であると言える内容でない。	数学的活動はマークと、ページ全体をクリーム色の帯で囲んで示してある。各学年4～5ヶ所に1～4ページ構成で、発展的な内容が数学的活動として設定されている。
(2)新しく指導する内容の取扱い	<b>資料の活用の取扱い</b>	1年では、階級の幅について本文で言及がなく、章の問題Bでの扱いで、生徒にとって難しい。有効数字の扱いがよい。  3年では、標本調査の必要性が十分説明されている。乱数やPCも扱われている。	1年では、階級の幅について無理なく本文で扱い、理解しやすい。有効数字の扱いがよい。資料の整理の最初に近似値が扱われており、扱いづらい。  3年では、標本調査の必要性の説明が軽い。乱数やPCも扱われている。	1年では、階級の幅について無理なく本文で扱い、理解しやすい。有効数字の説明はされている。  3年では、標本調査の必要性の説明が軽い。乱数やPCも扱われている。	1年では、階級の幅について無理なく本文で扱い、理解しやすい。有効数字の説明はされている。  3年では、標本調査の必要性の説明が軽い。乱数やPCも扱われているがPCは極端に少ない。	1年では、階級の幅について無理なく本文で扱い、理解しやすい。有効数字の説明はされている。  3年では、標本調査の必要性が十分説明されている。乱数やPCも扱われているがPCは少ない。	1年では、階級の幅について本文で言及がない。有効数字の扱いが軽い。  3年では、標本調査の必要性の説明が軽い。乱数が扱われておらず、PCの扱いも少ない。	1年では、階級の幅について無理なく本文で扱っている。さらに、自分で階級の幅を決める問題もあり、理解が深まる。有効数字の扱いがよい。  3年では、標本調査の必要性が十分説明されている。乱数やPCが十分に扱われている。
	<b>高校数学から中学校数学に戻された内容の取扱い</b> <数と式>	1年では、数の集合で、自然数、整数、数と拡張している。 3年では、解の公式の利用で、約分の間違い例を示している。例題では係数に注目させる工夫があり分かりやすい。	1年では、数の集合で、自然数、整数、数と拡張していくイメージがよい。 3年では、解の公式の利用で、例題に過不足がない。	1年では、数の集合で、自然数、整数、すべての数と拡張している。 3年では、解の公式の利用で、例題に過不足がない。	1年では、数の集合で、自然数、整数、分数の形に表せる数と拡張している。 3年では、解の公式の利用で、がなくなる例題を扱っていない。	1年では、数の集合で、自然数、整数、数全体と拡張していくイメージがよい。 3年では、解の公式の利用で、がなくなる例題を扱っていない。	1年では、数の集合で、自然数、整数、すべての数と拡張している。 3年では、解の公式の利用で、が残るが約分できる例題を扱っていない。問題で係数を考えさせる工夫があり分かりやすい。	1年では、数の集合で、自然数、整数、分数と拡張している。 3年では、解の公式の利用で、例題に過不足はない。例題では係数に色が付いていて分かりやすい。
	<図形>	3年では、円周角の定理の逆について説明のみである。	3年では、円周角の定理の逆について扱われている。	3年では、円周角の定理の逆について丁寧に扱っている。	3年では、円周角の定理の逆について扱われている。	3年では、円周角の定理の逆について扱われている。	3年では、円周角の定理の逆について丁寧に扱っている。	3年では、円周角の定理の逆について説明のみである。
	<b>スパイラルによる指導への取扱い(振り返りについて)</b>	巻末に前学年のかけ足復習を、新しい学習の前に「学び直し」を、本文中に「ちょっと確認」を設けている。	巻末にまとめて、学習の準備としての復習問題が、また各章にまとめの問題がある。	巻末に前学年の復習問題があり、章の扉や本文中に「ふりかえりマーク」で、章末の確かめように参照例題を明示している。	章に入る前に準備のページでしっかりふりかえりを、本文中に吹出しで、学習のまとめに参照ページを明示している。	「ふりかえり算数」や「ふりかえり」で示すとともに、章末の「基本のたしかめ」に参照ページを明示している。	巻頭に「まとめてふりかえろう」のページがあり、本文中に参照ページを明示している。	巻末に復習のページが、本文中に「確認」例題があり、章末の「くり返し練習」にフィードバックマークで参照箇所を示している。